

平成28年度「防災に関する県民意識調査」結果(速報)について

1 目的

三重県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成14年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。

平成28年度の調査内容は、設問ごとの経年変化を捉える必要があることから、原則として昨年度の設問項目を踏襲していますが、今年4月に発生した熊本地震については、さまざまな課題が明らかになってきていることから、熊本地震に関する項目の追加等、一部を変更しています。

2 調査方法

無作為抽出により県民の方にアンケート調査票を郵送する方法で実施しました。

- (1) 調査対象：県内全市町の20歳以上の5,000人
- (2) 調査期間：平成28年10月6日から平成28年10月21日まで
- (3) 回収率：57.2% (2,858人/5,000人)
- (4) 設問数：56問(枝問含む)

3 調査結果の概要

(1) 主な調査項目一覧

ア 災害に対する意識

- ① 問1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり
- ② 問5 熊本地震で明らかになった課題で危機感を感じる事(新規)
- ③ 問7 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度

イ 災害時の避難行動

- ④ 問2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動
- ⑤ 問8 局地的大雨等の避難行動

ウ 「自助」の取組状況

- ⑥ 問11 家庭での防災対策の状況
- ⑦ 問19 地域や職場での防災活動への参加状況
- ⑧ 問31 住まいの耐震診断および地震対策の状況
- ⑨ 問12 家具固定の進捗及び家具固定をしていない危険性の認識

エ 「公助」や県の施策の認知度

- ⑩ 問28 「公助」による防災・減災の取組
- ⑪ 問13 「防災みえ.jp」ホームページの認知度
- ⑫ 問26-1 学校の防災教育の家庭での認知度

(2) 主な調査項目の結果

ア 災害に対する意識

東日本大震災後の防災意識については、熊本地震の発生もあり、6割を超える方が高い防災意識や危機意識を持っています。

また、熊本地震で明らかになった課題については、生命の危険に直接関わる項目である「住宅の倒壊」に対し最も多くの方が危機感を感じており、このほか、「食料や飲み物等、救援物資が行き届かなかったこと」、「避難所外避難者への支援が遅れたこと」、「避難所が使用不能になったこと」等、発災直後の避難生活に関する課題に危機感を感じる方の割合が多い結果となりました。

風水害の危険性の認知度については、川のはん濫に対する危険性を認知する方の割合が多くなっています。

① 問1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり

東日本大震災の発生から5年半あまりが経過し、今年4月には熊本地震が発生しましたが、この大震災と地震を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

	1	2	3	4	5
選択肢 (一つだけ○)	東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている	東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)	東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある	東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、熊本地震後、再び高まった	東日本大震災発生時にも、熊本地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった
H28	9.8%	17.0%	28.0%	36.5%	4.7%
<H27>	10.8%	27.7%	56.6%		3.4%
<H26>	11.7%	29.6%	52.7%		3.9%

- ・ 「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、熊本地震後、再び高まった」と答えた方の割合が、36.5%と最も多くなっています。
- ・ 「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」方の割合については、昨年度までは5割を超える方が意識が薄れつつあると回答していましたが、今年度は28.0%と大幅に減少しました。

② 問5 熊本地震で明らかになった課題で危機感を感じること(新規)

今年4月に発生した熊本地震では、さまざまな課題が明らかになりましたが、これらのうち、特にどのようなことに危機感を感じていますか。(いくつでも○)

	1	2	3	4	5
選択肢 (いくつでも○)	多くの住宅が倒壊したこと	市町の庁舎等、防災上の重要拠点が被害を受け業務継続が困難になったこと	避難所に指定されている学校等が、被害を受け、使用不能になったこと	発災直後、食料や飲み物等、救援物資が被災者に行き届かなかったこと	指定避難所以外の避難所や車中泊等の避難者への支援が遅れたこと
H28	69.2%	34.1%	42.9%	63.9%	47.1%
	6	7	8	9	10
選択肢 (いくつでも○)	高齢者、障がい者、外国人、妊産婦等、避難所での生活が困難な人たちへの適切な対応が遅れたこと	災害により発生した多量の廃棄物の回収に時間がかかったこと	罹災証明書の発行に時間がかかったこと	仮設住宅の準備に時間がかかったこと	その他
H28	39.1%	26.2%	22.0%	34.0%	4.2%

- ・ 生命の危険に直接関わる項目である「多くの住宅が倒壊したこと」と答えた方の割合が最も多く、69.2%となりました。
- ・ 「発災直後、食料や飲み物等、救援物資が被災者に行き届かなかったこと」が63.9%、「指定避難所以外の避難所や車中泊等の避難者への支援が遅れたこと」が47.1%、「避難所に指定されている学校等が、被害を受け、使用不能になったこと」が42.9%と、発災直後の避難生活に関する課題に危機感を感じる方の割合が多い結果となっています。

③ 問7 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度

あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべりなど）の危険性について、どの程度ご存知ですか。(いくつでも○)

	1	2	3	4	5
選択肢 (いくつでも○)	高潮による浸水の危険性があることを知っている	川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている	内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている	自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている	自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けない、安全な場所にあることを知っている
H28	19.6%	34.1%	10.6%	14.3%	34.4%
<H27>	20.9%	34.5%	10.6%	12.4%	36.2%
<H26>	21.8%	37.3%	10.4%	12.9%	35.4%
	6				
選択肢 (いくつでも○)	地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたことがない				
H28	16.3%				
<H27>	15.2%				
<H26>	13.8%				

- ・ 「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」と答えた方の割合が34.1%と、多くなっています。

イ 災害時の避難行動

夜間、大地震に遭遇した際にすぐに避難行動を起こそうとする方の割合が高まっています。

また、局地的大雨等の避難行動については、周囲の様子を見て、避難するか自宅に留まるか判断する方が最も多くなっています。

④ 問2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

夜遅くあなたご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしています。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

	1	2	3
選択肢 (一つだけ○)	すぐに避難する	しばらく様子を見てから避難する	避難しない
H28	20.4%	68.5%	9.8%
<H27>	17.9%	71.3%	10.2%
<H26>	19.6%	66.9%	12.2%

- ・ 「すぐに避難する」と答えた方の割合が、昨年度から約2ポイント増加し、20.4%と2割を超えました。
- ・ 「避難しない」と答えた方の割合は、減少傾向にあります。

⑤ 問8 局地的大雨等の避難行動

近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降りだし、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動をとりますか。(一つだけ○)

	1	2	3	4	5	6
選択肢 (一つだけ○)	移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難しようとする	周囲の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する	気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する	市町から「避難勧告」や「避難指示」等が出されてから避難するかしないかを考える	避難しない(避難の必要がない)	わからない
H28	3.2%	36.7%	20.4%	22.2%	9.2%	2.8%
<H27>	3.5%	37.8%	20.1%	23.8%	8.2%	2.8%
<H26>	1.5%	30.6%	18.7%	28.0%	11.1%	3.6%

- ・ 「周囲の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する」と答えた方が最も多く36.7%で、続いて、「市町から「避難勧告」や「避難指示」等が出されてから避難するかしないかを考える」22.2%、「気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する」20.4%となっています。

- これら3項目を合算した計79.3%の方が、受身ではなく、自ら必要な情報を収集し、避難の要否を検討しようとしています。
- 一方で、9.2%の方が「避難しない（避難する必要がない）」と答えています。

ウ 「自助」の状況

県民の皆さんが、災害について「知る、備える、行動する」自助の取組に関する結果です。

家庭での基礎的な防災対策である「3日分以上の飲料水、食料の備蓄」については、昨年度まで減少傾向にありましたが、今年度は増加に転じました。

地域や職場で何らかの防災活動に参加した方の割合が、昨年度に続いて増加し、49.4%となりました。

住まいの耐震化については、耐震診断の結果を受け、補強工事や建替えを行うなど、具体的な行動を起こす方が増加しています。

⑥ 問 11 家庭での防災対策の状況

あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。(いくつでも○)

	1	2	3	4	5
選択肢 (いくつでも○)	3日分以上の飲料水を備蓄している(ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)	3日分以上の食料を常に確保している	懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している	災害が起きたとき避難する場所を決めている	災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
H28	32.5%	25.5%	48.2%	39.3%	12.2%
<H27>	30.6%	24.5%	46.7%	39.4%	11.4%
<H26>	31.6%	27.2%	50.3%	40.8%	12.3%
	6	7	8	9	10
選択肢 (いくつでも○)	家族がバラバラになったときの待ち合わせ場所を決めている	携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している	自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている	お風呂にいつも水を入れている	ガラスが壊れて飛び散らないよう防止対策をしている
H28	21.3%	15.3%	23.9%	11.2%	4.8%
<H27>	20.9%	16.6%	20.1%	11.7%	5.4%
<H26>	22.5%	15.7%	20.0%	11.9%	6.1%
	11	12	13	14	15
選択肢 (いくつでも○)	消火器を用意している	懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している	枕元にスリッパを置いている	いつも笛を身につけている	本棚や食器棚等からものが飛び出ないようにしている
H28	32.3%	33.2%	13.8%	3.3%	12.6%
<H27>	35.0%	-	12.8%	3.1%	13.8%
<H26>	35.1%	-	13.2%	2.9%	13.3%
	16	17	18	19	20
選択肢 (いくつでも○)	寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている	地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している	感震ブレーカーを設置している	ペットの餌や水、ゲージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている	その他
H28	34.1%	28.0%	3.5%	3.0%	2.8%
<H27>	35.4%	29.6%			2.4%
<H26>	34.4%	28.5%			2.5%
	21				
選択肢 (いくつでも○)	特に対策をとっていない				
H28	13.3%				
<H27>	11.1%				
<H26>	11.4%				

- ・ 「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が48.2%と最も多く、「災害が起きたとき避難する場所を決めている」39.3%、「寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている」34.1%と続いています。
- ・ 家庭での備蓄に関する設問である「3日分以上の飲料水を備蓄している」、「3

日分以上の食料を常に確保している」については、昨年まで減少傾向にありましたが、今年度は増加に転じました。

⑦ 問 19 地域や職場での防災活動への参加状況

あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。(一つだけ○)

	1	2	3	4
選択肢 (一つだけ○)	地域の防災活動に参加した	職場の防災活動に参加した	地域と職場、両方の防災活動に参加した	参加していない
H28	28.9%	16.3%	4.2%	48.5%
<H27>	27.3%	15.8%	4.3%	51.2%
<H26>	25.5%	18.3%	5.1%	49.6%

- ・ 地域や職場で何らかの防災活動に参加した方の割合が、昨年度から2ポイント増加し、49.4%（内訳：地域28.9%、職場16.3%、地域・職場4.2%）となりました。
- ・ 「参加していない」と答えた方の割合は、48.5%でした。

⑧ 問 31 住まいの耐震診断および地震対策の状況

あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

※一戸建ての持ち家・借家で昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家と回答された方を対象としています。

	1	2	3
選択肢 (一つだけ○)	受けたことがない	受けたことがあり、補強工事が必要と診断された	受けたことがあり、補強工事は必要なかった
H28	77.9%	9.1%	3.0%
<H27>	78.1%	10.6%	2.5%
<H26>	74.1%	10.8%	2.9%

「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

	1	2	3	4	5
選択肢 (一つだけ○)	補強工事を行った	建て替えた	補強設計のみ行った	現在検討中	工事を行うつもりはない
H28	27.5%	4.4%	3.3%	22.0%	41.8%
<H27>	22.8%	0.0%	3.0%	34.7%	38.6%
<H26>	28.4%	1.0%	2.0%	31.4%	28.4%

- ・ 「耐震診断を受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」方のうち、「補強工事を行った」方が27.5%、「建て替えた」方が4.4%で、計31.9%となり、昨年度の計22.8%から、約9ポイント増加しました。
- ・ 一方で「工事を行うつもりはない」と答えた方は、41.8%でした。
- ・ 耐震診断や耐震補強工事の補助対象となる「昭和56年5月以前に着工・建築さ

れた木造の一戸建ての持ち家・借家」について、「耐震診断を受けたことがない」と答えた方の割合が最も多く、77.9%でした。

⑨ 問12 家具固定の進捗及び家具固定をしていない危険性の認識

ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビなどが転倒しないよう固定をしていますか。
(一つだけ○)

	1	2	3	4
選択肢 (一つだけ○)	大部分固定している	一部固定している	固定していない	固定する必要がない
H28	10.8%	39.3%	48.1%	0.9%
<H27>	10.4%	39.6%	47.8%	1.3%
<H26>	10.7%	40.0%	46.9%	0.9%

「2. 一部分固定している」、「3. 固定していない」、「4. 固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、ケガをしない、家屋から脱出できなくなることがない等、安全な状態にありますか。

(一つだけ○)

	1	2
選択肢 (一つだけ○)	安全な状態にある	安全な状態とは言えない
H28	35.5%	61.3%
<H27>	36.3%	61.1%
<H26>	36.5%	59.9%

- ・ 「大部分固定している」と答えた方の割合が、昨年度から増加し、10.8%となりました。
- ・ 「固定していない」と答えた方の割合が48.1%と最も多く、関連設問においても、うち61.3%の方が、家具の固定について「安全な状態とは言えない」と答えています。

エ 「公助」や県の施策の認知度

防災基盤の整備推進や情報収集・提供体制の強化など「公助」による防災・減災の取組に関する結果です。

防災・減災の取組が進んできた実感するのは、「メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき」と答えた方の伸び率が最も高くなっています。

また、防災教育については、児童または生徒がいる家庭の約7割が、学校で防災教育が行われていることを認知しています。

⑩ 問 28 「公助」による防災・減災の取組

東日本大震災や紀伊半島大水害の発生を受け、三重県では防災・減災対策を県政の最重要課題に掲げて、国や市町など関係機関と連携しながら様々な取組を進めているところです。あなたは、どのようなときに、以前よりも防災・減災の取組が進んできたと実感しましたか。(いくつでも○)

	1	2	3	4	5
選択肢 (いくつでも○)	テレビや新聞で県や市町等の防災・減災施策に関する報道が増えてきたと感じたとき	県や市町の広報誌等で防災・減災対策に関する取組を目にする機会が増えてきたと感じたとき	地域における防災講演会等の防災啓発イベントの開催頻度が増え、内容が充実してきたと感じたとき	携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき	避難路や避難所の整備、堤防の補強工事や河川改修等のハード整備が進んできたと感じたとき
H28	52.2%	30.7%	12.3%	50.6%	18.1%
<H27>	55.5%	36.3%	13.3%	48.2%	20.6%
	6	7			
選択肢 (いくつでも○)	その他	あまり取組が進んだとは思わない			
H28	1.9%	12.7%			
<H27>	2.0%	11.0%			

- ・ 「テレビや新聞による報道」と答えた方の割合が 52.2%と最も多く、「メールやインターネットによる情報発信」が 50.6%、「県や市町の広報誌等」が 30.7%と続いています。

⑪ 問 13 「防災みえ.jp」ホームページの認知度

あなたは、「防災みえ.jp」ホームページをご存知ですか。(一つだけ○)

	1	2	3	4
選択肢 (一つだけ○)	知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時(以下「災害時」という。)に見たことがある	知っているが、災害時に見たことがない	知らない	インターネットを使っていない
H28	16.4%	21.7%	45.7%	14.3%
<H27>	16.0%	22.5%	45.6%	14.2%

- ・ 「知っている、災害時に見たことがある」と答えた方の割合が、昨年度から増加し、16.4%となりました。
- ・ 「知らない」と答えた方の割合が最も多く、45.7%でした。

⑫ 問 26-1 学校の防災教育の家庭での認知度

三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、学校での活用を要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたは、お住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育についてどの程度知っていますか。（一つだけ○）

※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

	1	2	3	4
選択肢 (一つだけ○)	学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある	学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない	学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない	学校で防災教育が行われているかどうか分からない
H28	15.7%	13.1%	39.6%	28.6%
<H27>	15.3%	16.4%	33.9%	31.7%
<H26>	19.2%	14.3%	32.2%	31.9%

- 小学生から高校生までの児童生徒がいる家庭の約7割が、学校で防災教育が行われていることを認知しています。
- そのうち、「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」15.7%、「学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない」13.1%と、学校の防災教育の内容まで認知している家庭は、あわせて約3割となっています。

4 今後の対応

今回の意識調査では、東日本大震災の発生以降、薄れつつあった県民の皆さんの危機意識が、熊本地震の発生を受け、大きく高まったことが確認されました。

また、住宅の倒壊や救援物資の遅れ等、実際に報道等で目の当たりにした課題に不安を感じていることも明らかになりました。

他方、非常持ち出し袋の準備や食料・飲料水の3日分以上の備蓄等、具体的な行動に取り組んでいる方の割合が増加しました。

このため、高まりつつある県民の防災意識を防災行動につなげるよう対策を実施していただくことが大切です。

引き続き、日頃からの備えである住宅の耐震化、家具の固定、飲料水・食料の備蓄の取組や、防災訓練への参加等を県民の皆さんに呼びかけ、市町、企業、防災関係機関と連携しながら、地域の防災力の向上に努めます。

なお、本調査結果については、年齢、市町別、津波危険地域等の属性別や設問間のクロス集計などにより、さらに分析を加えたうえで報告書として取りまとめ、市町を始めとする関係機関との情報共有を図るとともに、新たな行動計画の策定等、今後の防災・減災対策に活用していきます。